

【別紙1】

令和7年度生命(いのち)の安全教育 報告書				
園名・学校名 長崎県立盲学校				
実施日	令和 7年 11月 25日(火) 10:45 ~ 11:30 (45分)			
場所	小中学部合同教室			
講師	役職: 人権教育担当教諭			
形態	・授業(教科: 特別活動) ・講話 ・職員研修等(職員対象) ・その他()			
参加者	幼児・ <u>児童生徒</u>	園・学校職員	保護者	その他
	学年(小4~中3) (6)人	()人	()人	()人
テーマ	「一人ひとりが性別にかかわらず、平等に責任や権利や機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めることができる」というジェンダーフリーの考え方に触れさせ、不当な差別をゆるさない望ましい人権感覚を育てる。			
内容	内容(具体的に) ①ジェンダー、ジェンダーフリーという言葉の意味について説明する。(5分) ②「ちがいのちがいの」ワークシートを使用し、示されている男女の違いについての事例(男湯と女湯の区別、女性専用車両など10例程度)について、それぞれが「あって良い違い(あり)」と「ない方が良い違い(なし)」のどちらにあたるか、理由も合わせて考える。(20分) ③それぞれの事例について「あり」と「なし」のどちらを選んだか挙手で答えさせ、事例ごとに一人ずつ選んだ理由を発表させる。(10分) ④友達の発表を聞いて考えが変わった人がいれば、どの事例について考えが変わったか発表させる。(5分) ⑤学習内容のまとめをする。			
<成果や幼児・児童生徒の行動変容等> 男女の性差を考慮して尊重されるべきだと考える事例、性別にかかわらず平等に扱われるべきだと考える事例について、参加した児童生徒の中で答えが異なるものが複数あり、他の児童生徒の意見を聞いて自分の意見を変える場面がみられた。ジェンダーフリーの考え方を理解するとともに、自分と異なる意見を尊重することの大切さを学ぶ良い機会になったと考える。				
<今後の課題と自校(園)の取組等> 本校は在籍する幼児児童生徒数が少なく、在籍者が1名の学年が多い。学級単位の学習では他者の意見や人権を尊重することの大切さについての学習を行うことが難しいため、今後も学年、学部を越えて多数が参加する人権学習を実施していきたい。				